

第4章

施策推進の視点

第3章に掲げた京都府の教育の基本理念を実現していくために今後様々な施策を推進していく上で、すべての施策に共通して常に持つべき視点として、次のページに示す3つを掲げます。

- 教育に対する社会全体の連携の強化を目指す「横の連携」や、一貫した理念に基づく生涯学習社会の実現を目指す「縦の接続」という考え方を踏まえ、社会総がかりで教育に取り組むとともに、幼児期から成人までを見通した教育を進めます。
- 人間関係が希薄になったと言われる現代においても、地域の伝統的な行事に見られるように地域社会のつながりが比較的強いこと、世界に誇る最先端の技術を持ち最高水準の研究を行う大学や研究機関が存在すること、日本三景のひとつ「天橋立」をはじめとする豊かで美しい自然が存在すること、府内の各地域にそれぞれの伝統や文化が息づいていること、なかでも京都市域を中心とする文化は日本を代表する文化であると広く認識されていることなど、京都府は様々な強みを持っています。

ふるさと京都が持つこのような力を最大限に活かした「京都府ならではの教育」を進めることこそ、次代の京都を担う人づくりにつながるものと考えます。



施策推進の視点

社会総がかりで取り組む教育

子どもが心身ともに健全な成長を遂げ、人や社会とつながり、共に生きる心をはぐくむためには、子ども一人一人に対して、学校はもとより、家庭、地域社会、行政が、それぞれの役割と責任を果たしながら協働し、社会総がかりで取り組むことが大切です。

大人が生涯にわたって学び続けるその成果を次代を担う子どもの教育にも活かすこと、子どもの健やかな成長に関わる中で大人も子どもと共に学び成長することが望まれます。

幼児期から成人までを見通した教育

発達の段階に合わせて、健やかな身体、豊かな心、質の高い学力をバランスよくはぐくむためには、基本的な学びの場である学校が校種を越えてつながるなど、幼児期から成人までの見通しをもった教育を進めていくことが大切です。

京都の力を活かした教育

次代の京都を支え、新しい価値を創り出していく人づくりのためには、地域のつながりや人材、自然、伝統や文化など、ふるさと京都が持つ様々な力を活かした、京都府ならではの教育を進めていくことが大切です。